



## 歯科医・彌勒寺寛之の 後悔しない 歯科治療の受け方

## 第14回 「失った歯を補う方法① ブリッジ」

こんにちは。土沢デンタルクリニック院長の彌勒寺です。今回は「失って初めてわかる歯のありがたさ」と題して、1本1本の歯の重要性をご説明しました。虫歯予防を徹底して口内を健康に保ち、生涯自分の歯でモノを噛むことは理想といえます（現在、日本では8020運動といって、80歳のときに20本、歯を残そうという運動を厚生労働省が中心となって行っています）。しかし、実際は様々な要因から歯を失ってしまっている人が大半です（現実には80歳になった時に、平均6.8本しか残っていません）。では、いざ歯を失ってしまったとき、どう対応するのが良いか。今号以降数話に渡りその3つの方法について、それぞれの長所と短所を取り上げていきます。

まず今回ご紹介する1つ目がブリッジです。失ってしまった歯の両隣の健康な歯を削って、かぶせ物をして橋をかけます。橋をかけるために、「ブリッジ」と呼ばれている治療法です。ブリッジは固定式になりますので、取り外したり、装置を洗ったりする手間はかかりません。また、しっかりと両隣の歯に固定されているために、モノを食べる際にも、違和感なく、美味しく食べることができます。

しかし、ブリッジにも問題点がいくつかあります。まず、3本分を連続で補うことはできるのですが、5本からは支える歯に負担が大きすぎて、できないというこ

と。次に、両隣の歯で支えますので、一番、奥の歯が抜けてしまうと支える歯がなくなってしまう、ブリッジをかけることができなくなってしまいます。さらに、ブリッジも両隣の歯で支えますので、この支えている歯に負担がかかってきます。例えば、1本無くなってしまった歯を両隣の歯で支えるとする、これまでは3本でやっていたことを2本でやることになります。会社でいえば、「これまで3人でやっていた仕事を1人辞めたから、2人でやってくれ」ということになります。最初のうちは頑張れるのですが、2年・3年経ったら、残った人も辞めてしまうことがありますよね？ それと同じように、支えている歯には大きな負担がかかり、状態にもよりますが10年ぐらい経つと支えている歯が辞めたくなくなってしまいます（オスロ大学の調査によると、ブリッジの平均残存期間は10.5年であった）。さらに、ブリッジの場合、支える歯の周囲を削ってかぶせものをするので、健康な歯を削らなければならないというデメリットもあります。

次回、2つ目の方法である入れ歯をご紹介します。日本人には「年を取ったら入れ歯」というほどなじみ深いといえますが、果たして本当にそれしか選択できないのでしょうか？ 検証してみます。



### ～著者プロフィール～

土沢デンタルクリニック院長 彌勒寺 寛之（みろくじ ひろゆき）1979年東京生まれ  
住 所 宇都宮市本丸町11-12 T E L 028-634-5141 (URL) <http://tda86.com>  
所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会

日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。  
当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

（この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。）

